

南浦和中だより

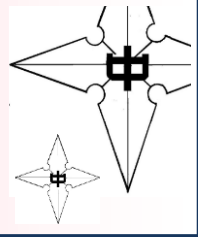
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



『君は薔薇より美しい』

校長 おお ころ うち のり かず 大河内 範一



薔薇には棘（とげ）がある。私も何気なく触れてチクリと刺さり、痛い思いをしたことが何度もある。しかし、薔薇が嫌いだという声はあまり聞いたことがない。むしろ、その棘さえも美しさの一部として受け入れられているように思う。人もまた、ときにとげとげしい言葉を発してしまうことがあるが、それだけでその人を否定してしまうのは、薔薇の棘だけ

を見て嫌うようなものかもしれない。

6月は「いじめ撲滅強化月間」であり、本校でも様々な取組を行ってきたが、いじめに関するトラブルは、どの学校でも、どの生徒にも起こり得るものである。「自分には関係がない」と思っている人がいたら、それは大きな間違いである。いじめは誰かが見て見ぬふりをした瞬間に静かに根を張り始める。そして少しずつ広がり、やがて手に負えなくなっていく。だからこそ、「弱い者をいじめることは、人間として絶対に許されない」という認識を、すべての人がしっかりと持たなければならないのである。

薔薇の花言葉は、色によって異なる。赤は「愛」、白は「尊敬」、黄色は「友情」、ピンクは「感謝」。どれも人と人との関わりに欠かせない言葉ばかりである。いじめという行為は、こうした素敵な花言葉とは正反対のところにある。薔薇が咲くためには、太陽や水、そして周囲の環境が必要である。人もまた、優しさや理解、安心できる空間の中でこそ、自分らしく育ち、自分らしい花を咲かせることができる。

薔薇の香りは、遠くまでふんわりと漂う。優しい言葉が人から人へと広がっていくのも、それによく似ている。反対に、冷たい言葉は薔薇の棘よりも鋭く心を傷つけることがある。言葉には、私たちが思う以上に大きな力がある。

また、薔薇は一輪でも美しい花である。しかし、花壇に咲く薔薇は、互いの色や香りを引き立て合い、より美しい景色をつくり出す。一人だけが輝けばよいのではない。周りの花も大切にされてこそ、本当の美しさが生まれ、花壇全体が美しく見えるのである。学校も同じだ。一人ひとりが違う個性を持ちながら、互いを認め合い、支え合うことで、学級や学年はもっと素敵な場所になる。

いじめとは、たとえるなら、誰かの棘を笑い、誰かの香りを否定し、誰かの色を塗りつぶすような行為である。そんなことをしても自分が輝くことはない。むしろ、自分自身の花を枯らしてしまうような悲しい行いである。

君たちは薔薇よりも美しい。少し痛い棘があっても、不器用なところがあっても、それぞれ違う色を持っていても、みんなかけがえのない存在である。誰かを傷つけるより、自分の花をしっかりと咲かせよう。そして、自分の隣に咲く花をそっと見守り、その美しさを認められる人であってほしい。